

第11回 全日本視覚障害者ボウリング選手権大会 競技規則

1 原則

この規則に定める以外は、全日本ボウリング協会競技規則及び国際視覚障害者スポーツ連盟、視覚障害者用テンピン・ボウリング・ルールによるものとする。

2 クラス分類

B1：視力0から光覚までの者で、いかなる距離、方向からも手の形が見分けられない者

B2：手の形の認知可能から視力が2/60 (0.03) までか、視野が5度まで、あるいはその両方

B3：視力が6/60 (0.1) までか、視野が20度まで、あるいはその両方

クラス分けについては、両眼とも可能な限りの矯正視力を届け出ること。

3 競技種目

1) 個人戦

個人戦はクラス別 (B1、B2、B3)、男女別を実施し、6ゲームの総得点で順位を決定する。

2) ダブルス戦

ダブルス戦は、男女の区別は設けないものとし、女子選手のスコアについては各ゲーム10点ずつ加算される。2人の選手のクラスの合計はB4以下でなければならない。各人6ゲーム、計12ゲームの総得点で順位を決定する。

なお、本大会では2つのカテゴリー (区分) を設ける。

①B1選手を含むダブルス

(B1選手を含む：B1+B1、B1+B2、B1+B3)

②B2ダブルス

(B1選手を含まない：B2+B2)

3) 個人総合戦

個人総合戦はクラス別 (B1、B2、B3)、男女別とする。1日目6ゲーム、2日目6ゲーム、合計12ゲームの総得点で順位を決定する。

4 補助具等

1) ガイドレール

B1、B2の選手については、必要に応じて方向確認のためのガイドレールを主催者が設置する。ガイドレールは高さ94cm、長さ370cmとする。ガイドレールはガター内側より板4枚外側で、レールの先端はファールライン手前40cmの位置に設置される。

2) アイマスク

B1の選手は、国際規格のアイシェードまたはアイマスクを準備し、正しく着用の上競技しなければならない。

5 競技方法

競技の方法はフレーム毎にレーンの移動を行わないシングルレーン（ヨーロッパ）方式とする。

6 レーン配当

個人戦及びダブルス戦のレーン配当は主催者が事前に、抽選により決定する。ダブルス戦では同一チームの選手は同じレーンで投球する。したがって、ガイドレールが不要な選手であってもガイドレールの設置されたレーンで投球する場合がある。

7 競技中のサポート等

競技中のサポートは、原則として競技役員のみとする。アプローチ上では審判員、それ以外では補助員が行う。

1) 競技審判員の役割

各ボックスには1名ないし2名の競技審判員が配置される。競技審判員は選手の以下の要望に応えるものとする。

①アプローチ上の誘導

②残ピン及び投球後のボールの方向確認

③投球動作前の立ち位置の確認

④スコア確認

⑤ボールピックアップの補助

2) 補助員の役割

補助員はボウラズベンチ等で選手のサポートを行うものとし、基本的には主催者が認めた者とする。

8 禁止事項

1) 投球する前にファールラインを超えての位置確認はできない。

2) 投球動作時の介助及び言葉による指示はできない。

3) ガイドレールは、方向確認のみに使用するものとし、バランスをとるために使用してはならない。ボールが手から離れる瞬間はガイドレールに触れていてはならない。

4) マット・テープ・パウダーの使用等、競技場の物理的な変更をしてはならない。

9 服装

服装については、競技にふさわしい服装で臨むこと。

ポロシャツなど襟付きのシャツと長ズボンやスラックスを着用すること。女子は、スカート、ショートパンツを着用しても良い。